



コミュニティ・スクール基本理念

一地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

川崎小学校 めざす学校像

ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれる学校

NO.13 令和7年9月10日 校長

## 6年生「全国学力・学習状況調査」の結果から

全国学力・学習状況調査とは・・・

文部科学省が全国の小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、毎年4月に行っている学力と学習状況の調査です。教科に関する調査は、例年行われている国語、算数の2教科に加え、理科は3年ぶりに実施されました。

前学年までに学習した内容が出題され、5年生までに学習したことの定着度を測ることが目的です。各教科45分で取り組みました。また、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）もありました。

### 【教科に関する調査の結果 平均正答率（％）】

R7年度の結果をR6及びR5年度と比較して表にしました。

全国の結果と比べてみると、R7年度は、国語で2.8ポイント、理科で5.1ポイント下回りました。算数は全国の結果と比べて1.0ポイント上回りました。

年度によって、問題や受験者が異なるために一概には比較できませんが、昨年度授業づくり研修や少人数授業・コース別学習などを計画して行ってきた取組の成果がみられました。

|    | 年度    | R7年度  | R6年度  | R5年度  |    | 年度    | R7年度  | R6年度  | R5年度  |
|----|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|
|    | 全国との差 | ▲2.8  | ▲14.7 | ▲6.2  |    | 全国との差 | 1.0   | ▲19.4 | ▲12.5 |
| 国語 | 県との差  | ▲2.0  | ▲14.0 | ▲6.0  | 算数 | 県との差  | 2.0   | ▲18.0 | ▲12.0 |
|    | 川崎小   | 64.0% | 53.0% | 61.0% |    | 川崎小   | 59.0% | 44.0% | 50.0% |
|    | 三重県   | 66.0% | 67.0% | 67.0% |    | 三重県   | 57.0% | 62.0% | 62.0% |
|    | 全国    | 66.8% | 67.7% | 67.2% |    | 全国    | 58.0% | 63.4% | 62.5% |
|    |       |       |       |       |    |       |       |       |       |
| 理科 | 年度    | R7年度  | R6年度  | R5年度  |    |       |       |       |       |
|    | 全国との差 | ▲5.1  |       |       |    |       |       |       |       |
|    | 県との差  | ▲4.0  |       |       |    |       |       |       |       |
|    | 川崎小   | 52.0% | データなし | データなし |    |       |       |       |       |
|    | 三重県   | 56.0% |       |       |    |       |       |       |       |
|    | 全国    | 57.1% |       |       |    |       |       |       |       |

### 国語科 問題別に分析してみると…

【特に正答率の高かった（全国平均よりも5ポイント以上高い）内容】

- 下線部アを、漢字を使って書き直す（このみ→好み）（川崎小 97.7%、全国平均 81.6%）
- 下線部イを、漢字を使って書き直す（あつい日→暑い日）（川崎小 87.9%、全国平均 72.1%）

【特に正答率が低かった内容（全国平均よりも8ポイント以上低い）内容】

- ▲ インタビューの様子の一部で話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる（川崎小 59.1%、全国平均 73.7%）
- ▲ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる（川崎小 53.0%、全国平均 61.3%）

▲ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる（川崎小 45.5%、全国平均 56.3%）

▲ 事実と感想、意見などとの関係について叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる（川崎小 39.4%、全国平均 51.3%）

また、問題の無回答率（答えを書かず、空白のまま提出している割合）は、約8割の問題で全国平均を下回っており、問題に取り組もうという姿勢が感じられました。

#### 国語科で見えてきた課題

- 記述問題に苦手意識がある文章をまとめて書く力に課題がある
- 時間配分、情報量に追いついていない→文を読んで一度で理解できていないため、何度も問題文を行き来することとなり、時間がかかっている
- 何が求められているか理解し、必要な情報を抜き出すことを苦手としている
- 知識技能はあるが、読み取る力に課題がある
- 何が問われているのかの理解ができていない
- 情報の取捨選択をする機会が日常生活に激減している
- 長い文章を読み慣れていない
- 似ている選択肢を見分ける力が不足している

#### 授業における対策

- ◆ 読書や文字を読む機会を増やす
- ◆ 文章の読み取り、資料の読み取りの機会を増やす
- ◆ 子どもに考えさせる場＝個人でまずは考える場を設ける
- ◆ 言葉を正しく知り、正しく読み取る経験をさせる
- ◆ 学年ごとのことばの宝箱の活用
- ◆ 必要な情報に線を引く
- ◆ 選択肢を比較する練習
- ◆ 目的をもってインタビューをさせる機会を設ける
- ◆ 条件を設定して考えを書く機会を増やす

#### 算数科 問題別に分析してみると…

【特に正答率の高かった（全国平均よりも5ポイント以上高い）内容】

- $1/2 + 1/3$  を計算する（川崎小 87.9%、全国平均 81.3%）
- 角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ（川崎小 86.4%、全国平均 79.3%）
- 2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ（川崎小 84.8%、全国平均 78.7%）
- 示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ（川崎小 77.3%、全国平均 71.6%）

【極めて正答率の高かった（全国平均よりも10ポイント以上高い）内容】

- ◎ 方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ（川崎小 78.8%、全国平均 50.2%）
- ◎ 数直線上に示された数を分数で書く（川崎小 81.8%、全国平均 35.0%）

【特に正答率が低かった内容（全国平均よりも8ポイント以上低い）内容】

- ▲ はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる（川崎小 51.5%、全国平均 60.9%）
- ▲ 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる（川崎小 45.5%、全国平均 58.3%）

【極めて正答率が低かった内容（全国平均よりも10ポイント以上低い）内容】

- △  $0.4 + 0.05$  について、整数の加法で考えるとときの共通する単位を書く（川崎小 62.1%、全国平均 74.1%）

- △ 示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ(川崎小 45.5%、全国平均 58.3%)
- △ 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く(川崎小 22.7%、全国平均 37.0%)
- △ 使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く(川崎小 37.9%、全国平均 48.7%)

算数科は全 16 問中全国の結果と比較して、5 ポイント以上上回る問題が 6 問ありました。一方で全国の結果と比較して、5 ポイント以下下回る問題が全 16 問中 8 問あり、そのうち 10 ポイント以上下回るものが 4 問ありました。本校児童の得意不得意の傾向がはっきりしてきました。

全国的に子どもたちが苦手とする問題が、川崎小の子どもたちにとっても大きな課題(問題文を正確に読み取り、条件に合うように記述や選択をすることが苦手)であることがわかってきました。

また、問題の無回答率(答えを書かず、空白のまま提出している割合)は、75%の問題で全国平均を下回っており、問題に取り組もうという姿勢が感じられました。

#### 算数科で見えてきた課題

- 問題の中にあるヒントに気づけない、問題で問われていることが何かがわからない
- 速さ、直径、平行などの算数の概念が正しく理解できていない
- 小数、分数、大きい数、グラフを見ると難しく感じる
- 一問一答形式ではない問題を苦手とする
- 情報量の多い長文の課題から必要な情報を抜き出すことやグラフを読み解くことが難しい

#### 授業における対策

- ◆ 尋ねられているところに線を引く
- ◆ 速さなど概念を生活イメージや生活経験と結びつける活動を行う
- ◆ 図に表す練習をさせるとともに作図の指導(テープ図、線分図、比例の図)を行う
- ◆ 説明に必要な「型」を提示し、それに従って説明できるようにする【例:まず→つぎに→だから】
- ◆ 作図や目盛りの読み取りなど具体物を使った授業時間における活動時間の確保
- ◆ 式の説明や振り返りなど自分の考えを書く活動を行う

#### 理科 問題別に分析してみると…

【特に正答率の高かった(全国平均よりも 5 ポイント以上高い)内容】

- ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く(川崎小 84.8%、全国平均 78.0%)

【極めて正答率の高かった(全国平均よりも 10 ポイント以上高い)内容】

- ◎ 乾電池 2 個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ(川崎小 69.7%、全国平均 55.1%)

【特に正答率が低かった内容(全国平均よりも 8 ポイント以上低い)内容】

- ▲ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く(川崎小 51.5%、全国平均 60.5%)

【極めて正答率が低かった内容(全国平均よりも 10 ポイント以上低い)内容】

- △ 海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ(川崎小 53.0%、全国平均 65.6%)
- △ ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ(川崎小 45.5%、全国平均 62.0%)

- △ 水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ（川崎小 45.5%、全国平均 57.5%）
- △ レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く（川崎小 18.2%、全国平均 29.9%）

#### 理科で見えてきた課題

- 問題文や図の中にあるヒントに気づけない、問題で問われていることが何かがわからない
- 長い文章や図を見ると難しく感じる
- 情報量の多い長文の課題から必要な情報を抜き出すこと

#### 授業における対策

- ◆ 尋ねられているところに線を引く
- ◆ 理科だけでなく生活経験における比較などをとりあげ、生活イメージと結びつける
- ◆ 算数科で扱う文言に苦手意識があるので、算数科の授業でも特に割合や単位を意識して授業を行う

こんな問題が出題されています。

以下の問題は本校児童の正答平均と全国平均との差が一番大きかった問題です。

- (4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

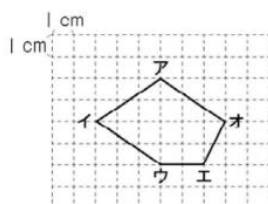


図3

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。



わかな

わたしは、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。



ゆうた

私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、2つの図形の面積がそれぞれ何  $\text{cm}^2$  になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

1 直線イオ

2 直線ウオ

※ 必要ならば、下の公式を使って考えてもかまいません。

- ・ 長方形の面積＝たて×横  
＝横×たて
- ・ 正方形の面積＝1辺×1辺
- ・ 平行四辺形の面積＝底辺×高さ
- ・ 三角形の面積＝底辺×高さ÷2
- ・ 台形の面積＝(上底+下底)×高さ÷2
- ・ ひし形の面積＝対角線×対角線÷2



国立教育政策研究所

NIER

National Institute for Educational Policy Research



令和7年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料等については、国立教育政策研究所のホームページからご覧いただくことができます。

<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>